

【樋口達哉】

福島県出身。オペラ歌手。

武蔵野音楽大学卒業及び同大学大学院修了後に渡伊。1998年、2001年リクルート・スカラシップ獲得。E・カルーソー国際声楽コンクール最優秀賞等、受賞歴多数。

'98年ハンガリー国立歌劇場《ラ・ボエーム》ロドルフォ役でヨーロッパデビューを果たし、続いてロヴェレート市立歌劇場(イタリア)にも同役で出演。'99年にはミラノ・スカラ座に出演。その後、メトロポリタン歌劇場管弦楽団、モンテカルロフィルハーモニー交響楽団、キューバ国立交響楽団、オマーン王立管弦楽団等と共演。その他、ボルドー歌劇場(フランス)、パリ・マドレーヌ寺院、ロンバルディア音楽祭(イタリア)、テル・アヴィブ(イスラエル)でコンサートに出演するなど各地で出演を重ねる。2010年にはミラノ大聖堂、サン・ピエトロ寺院(ヴァチカン)に於いて「レクイエム」(三枝成彰)公演で成功をおさめる。2014年には、イタリアとサン・マリノ共和国、2018年、2019年にはパリユネスコ大使公邸にてリサイタルを開催する。2025年には、オマーンのロイヤル・オペラ・ハウス・マスカットにて「日本・オマーン友好コンサート」に出演。

国内に於いても新国立劇場、二期会を中心に日生劇場、びわ湖ホール、兵庫県立芸術文化センター等で主演し各界から絶賛される。特に二期会公演では、新聞紙上でも絶賛された2007年《ダフネ》(R.シュトラウス)のデビュー以来《仮面舞踏会》リッカルド、《エフゲニー・オネーギン》レンスキー(コンヴィチュニー演出)、《椿姫》アルフレード(宮本亜門演出)、《蝶々夫人》ピンカートン、《ファウストの劫罰》ファウスト(M・プラッソン指揮)、《こうもり》アルフレード、《ホフマン物語》ホフマン(M・プラッソン指揮)、《トスカ》カヴァラドッシ、《ノルマ》ポリオーネ、《外套》ルイージ、《サムソンとデリラ》サムソン、《エドガー》、《トゥーランドット》カラフ、《ドン・カルロ》、《影のない女》皇帝役と立て続けに主演し、いずれも高い評価を得る。その他に《魔笛》タミーノ、《コジ・ファン・トゥッテ》フェランド、《ザザ》ミーリオ、《ファルスタッフ》フェントン、《フィデリオ》ヤッキノ、《カヴァレリア・ルスティカーナ》トゥリッドゥ、《ジャンニ・スキッキ》リヌッチョ、《カプレーティ家とモンテッキ家》テバルド、《ナブッコ》イズマエーレ、《アイダ》ラダメス、《ラ・ワリー》ハーゲンバッハ、《ルサルカ》王子、《スペインの時》ゴンサルヴェ、《さまよえるオランダ人》エリック、《メリー・ウィドウ》カミーユ、《カルメン》ドン・ホセ、《道化師》カニオ等に出演。2023年《アンドレア・シェニエ》の表題役では、安定した歌唱と抜群の表現力でお客様を魅了したことは記憶に新しい。

日本オペラの分野でも《夕鶴》与ひょう、《黒船》領事、《修禅寺物語》春彦(坂田藤十郎演出)、《忠臣蔵》岡野金右衛門、《金閣寺》柏木役等で存在感を示す。

コンサートにおいても、ベートーヴェン「第九」「ミサ・ソレムニス」、モーツァルト、ヴェルディの「レクイエム」のソリストはもとより、「NHK・FM名曲リサイタル」、「題名のない音楽会」、オペラ界のスターが一同に集まる「NHKニューイヤー・オペラコンサート(2008, 2009, 2011, 2012, 2025)」等で活躍。

イタリアの太陽を想わせる輝きのある声と華を持つ日本を代表するテノールとして多くのファンを魅了している。

2012年、ファースト・アルバム『Per te〜君のために〜』、2014年にはセカンド・アルバム『Passione』、2017年サード・アルバム『あこがれ Ti adoro』をソニー・ミュージックよりリリース。

男声ユニット『ザ・ジェイド』メンバー。二期会会員。武蔵野音楽大学、東京芸術大学講師。出身地・二本松市の観光大使。

オンライン・サロン【ヒグタツ倶楽部】を開設。<https://higutatsu.com/>

オフィシャル・サイト<https://www.higuchi-tatsuya.com/>

TATSUYA HIGUCHI tenor

Born in Fukushima, Tatsuya Higuchi received his undergraduate and master's degrees from the Musashino College of Music and moved to Milan to pursue his studies. His many accolades include 1st place at the Altamura-Enrico Caruso Voice Competition.

Since his European operatic debut at the Hungarian State Opera as Rodolfo«La Bohème» in 1998, Tatsuya has collaborated with many prestigious opera companies such as the Metropolitan Opera and the Teatro alla Scala. In 2010, Tatsuya won widespread acclaim for his performance as soloist in Requiem at the Duomo di Milano and the Basilica di San Pietro in Vatican. In 2014, he appeared in joint recitals in Italy and Republic of San Marino.

He has also appeared in many operas, singing with the New National Theater and Tokyo Nikikai in Japan. He has sung Cavaradossi«Tosca», Pinkerton«Madama Butterfly», Turiddu«Cavalleria Rusticana», Ismaele«Nabucco», Fenton«Falstaff», Leukippos«Daphne», Riccardo«Un ballo in Maschera», Lensky«Evgenij Onegin», Alfredo«La Traviata», Faust«La Damnation de Faust», Alfredo« Die Fledermaus», Hoffman« Le Conte d'Hoffman», Radames«Aida», Erik«Der fliegende Holländer», Prince«Rusalka», Pollione«Norma», Luigi«Il Tabarro», Gonzalve«L'Heure Espagnole», Kashiwaghi«The Temple of Golden Pavilion», Canio«I pagliacci», «Djamileh», Samson«Samson et Dalila», Camille«The Merry Widow», Don José«Carmen», «Edgar», Calaf«Turandot», «Andrea Chénier», «Don Carlo», Keiser«Die Frau ohne Schatten» etc...

He has been entralling many audiences with his Italian sunshine-like brilliant timbre and his strong stage presence.

He is a member of Tokyo Nikikai, and a lecturer at Graduate School of Tokyo University of the Arts and Musashino Academia Musicae.